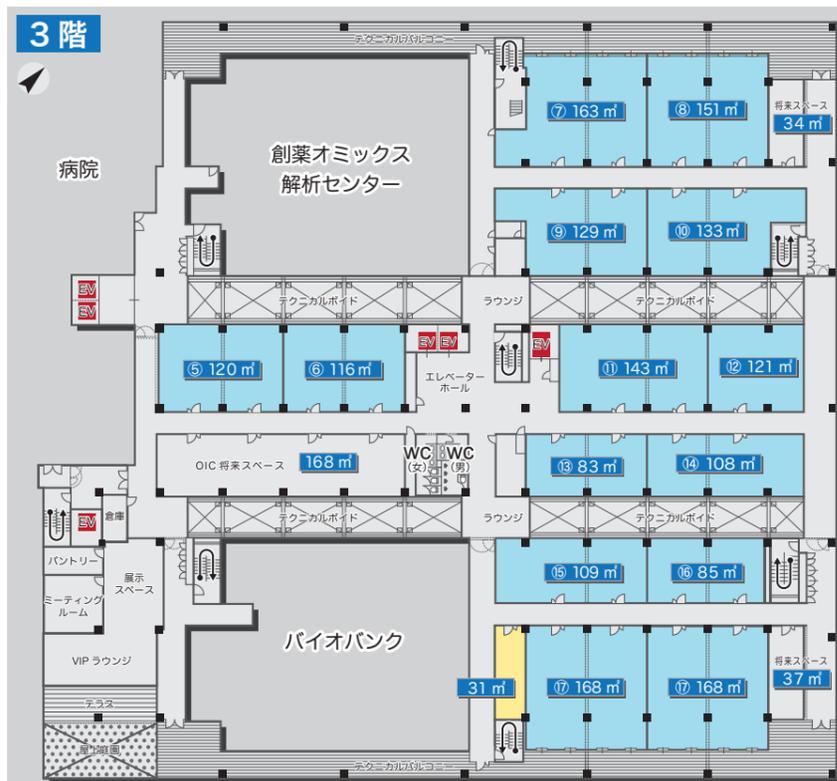


## フロア案内 / Floor Guide

### 仕様

- スケルトン構造とし、入居スペース (18ユニットが基本) はニーズに応じて柔軟に対応。
- 入居スペースごとのセキュリティ。入居者は病院区画・研究所区画へのアクセス権の付与が可能。
- 各入居スペースへの給排水配管、電気配線(100V・200V)、無線アクセスポイントを整備。
- 積載荷重 500kg/㎡を想定。天井高 2700mm。



### フロアインデックス

#### 1階

- ・ エントランス (待合スペースあり)

#### 2階

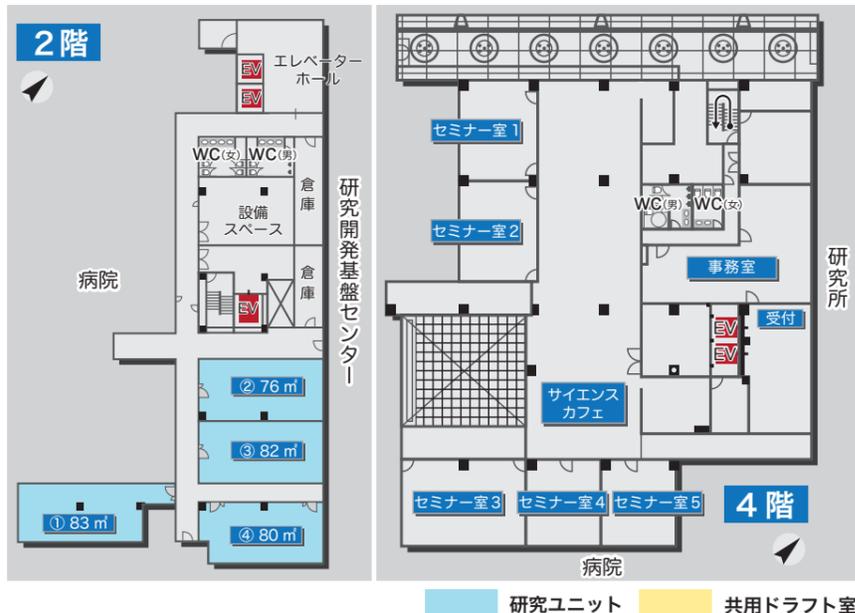
- ・ 4ユニットの入居スペース

#### 3階

- ・ 14ユニットの入居スペース
- ・ 共用ドラフト室あり

#### 4階

- ・ 5つのセミナー室



# オープンイノベーションで 実現する 次世代の医療



## アクセス / Access

### ● 主要駅等からの所要時間 ※所要時間 (目安)

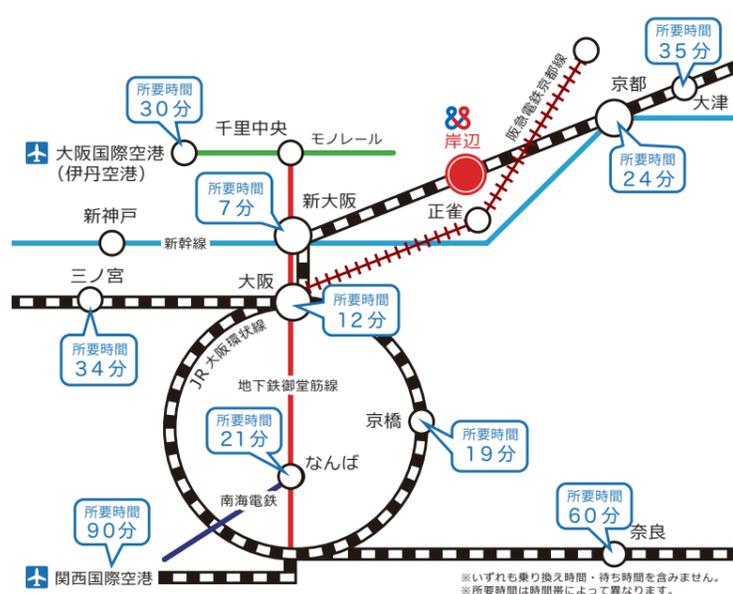
- JR 新大阪駅から：約 7 分
- JR 大阪駅から：約 12 分
- 地下鉄なんば駅から：約 21 分
- JR・京阪京橋駅から：約 19 分
- JR 京都駅から：約 24 分
- JR 大津駅から：約 35 分
- JR 三ノ宮駅から：約 34 分
- JR 奈良駅から：約 60 分
- 大阪国際空港から：約 30 分

### お問い合わせ先

国立循環器病研究センター  
オープンイノベーションセンター 準備室  
TEL: 06-6833-5012 (代) <http://www.ncvc.go.jp/special/>



国立研究開発法人  
国立循環器病研究センター



# ごあいさつ



国立研究開発法人  
国立循環器病研究センター  
理事長 小川久雄

新しい国立循環器病研究センターでは  
産学官連携によるオープンイノベーションにより  
「循環器病の予防と制圧」の国際拠点を目指します。

国立循環器病研究センターは、脳卒中と心臓病の患者さんの専門的治療と研究を行っている世界でも有数の施設であり、1977年に国の機関として設置されて以来、日本の循環器医療の発展に寄与してきました。2019年には、JR東海道本線岸辺駅前への移転が予定されていますが、新しいセンターの中には企業・大学等の研究者と共同研究を行うオープンイノベーションセンター(OIC)を設置します。移転後は、OICや隣接した健都イノベーションパークを中心としたオープンイノベーションにより最先端医療・医療技術の開発で世界をリードし、周辺エリアの産業活性化を起こしてまいります。

## 国循の特長

- 脳卒中、心不全など脳と心臓との双方に係る循環器疾患を対象とする医療研究機関
- 国内有数の心臓移植症例数と世界的に極めて高い移植症例生存率
- 国産初承認の補助人工心臓をはじめとするハイリスク医療機器の開発実績
- グレリンや ANP を初めとする数々の生理活性物質などの探索に成功
- かるしお認定制度など産業界を巻き込んだ新しい普及モデルを推進

## OICの特長・企業等にとっての魅力

- 国循のネットワークを最大限に活かした研究体制とプロジェクト運営のサポート
- 共同研究での国循の設備等の優先的な活用（大型実験動物を用いた研究施設、バイオバンク、循環器病統合情報センター、創薬オミックス解析センター、吹田コホート研究等のビッグデータ）
- 臨床従事者・研究者との日常的な交流
- 研究内容に応じた臨床現場へのアクセス権の付与
- サイエンスカフェにおける意見交換やセミナー等の開催

# オープンイノベーションセンター（OIC）の方向性

オープンイノベーションにより最先端医療・医療技術で世界をリード  
革新的な技術・製品を生み出すためには、  
企業・大学・研究機関の知識・技術の結集が必要

## 国循内の“一つ屋根の下に”共同研究拠点 OIC を設置



## OIC への企業等参画の条件

- 国循と共同研究を実施すること（間接経費は直接経費の30%）
- 国循が実施すべき研究課題について公募し、最も適していると認められる企業・研究機関等を国循が選定

国立循環器病研究センター  
(2019年7月移転予定)

健都イノベーションパーク (4ha)  
医療系企業・大学・研究機関等を誘致

吹田市民病院  
(2018年度開院予定)

複合商業施設

都市型住宅

岸辺駅から国循入口には、  
空中デッキで直結

国循主導で企業・大学等の研究者と共同研究を行う拠点  
オープンイノベーションセンター（OIC）の整備

